

大阪市の大きなバックアップを受けて※ 森ノ宮医療大学 開学へ

(仮称・設置認可申請中)

コスモスクエアから新しい時代の優れた医療人を生み出す森ノ宮医療大学について、
大阪市長 關淳一氏と学園理事長 森俊豪の対談をお届けします。
(仮称)

※咲洲コスモスクエア地区立地促進助成ならびに大阪市都市再生重点産業立地促進助成の第1号として助成金を受けます。

大学の取り組み

關市長 大阪市内のコスモスクエアに4年制大学を開学される。大阪市にとってもすばらしい。非常にありがたい。鍼灸や理学療法のような、これから求められている新しい分野の大学を今から創ろうとされている。

森理事長 鍼灸の専門学校を30年余やってきたのですが、医療の中心は、西洋医学が入ってくる前は鍼灸や湯液(漢方薬)でした。特に鍼灸は関西圏で非常に盛んに行われていた。たとえば、小児鍼ですが、関東ではほとんど見られない。一般に庶民の中で利用されているのも大阪だけ。もともとは江戸時代から鍼灸の著名な方が出ているのも大阪や京都であり、本学園の創立も当時の著名な臨床家達が集まって作った学校です。我々は創立時、これを大学にしたいという思いがありました。

關市長 このたび、それが実現するわけですから、おめでとうございます。

東洋医学の鍼、 西洋医学の理学療法を融合

關市長 知人が、中国へ行って、胆石か胆のう炎の発作を起こしたときに鍼麻酔を受けた。耳のところにツボがあるのか、そこに印をつけてもらい、今度帰って発作が起こったら、そこをやってもらいたい。臨床医学の世界でも、ヨーロッパの雑誌には、大分前だが、鍼の事はたくさん紹介されており非常に評価された論文がたくさん載っていましたね。

森理事長 市長は市大医学部の出身だと伺っておりますが、ご専門は？

關市長 専門は内科で、糖尿病を長くやりました。ご存知のように、糖尿病は、いっぱい合併症を引き起こす。

森理事長 糖尿病に伴って末梢循環不全も起こると言われています。鍼灸の治療効果も研究が進みまして、循環改善がその効果の大きなベースになっていることもわかってきています。日本でも鍼麻酔以降、研究は進んだのですが、やはり教育制度の中で、専門学校でずっとやってきたものですから、諸外国に比べて、論文の数や質などが追いついていないという状況です。やはりもっとたくさんの研究機関が必要です。

關市長 臨床例は、すごく豊富にあるわけで、それをまとめていけば、いろんな研究ができるでしょうね。大学となったら、そういうことがなされるでしょうし、理学療法なども、これから脚光を浴びる大事なところですからね。

森理事長 特に鍼と理学療法と一緒に学部で教育をしたいと思いましたが、対象疾患が非常に似ているからです。卒中後遺症もそうですし、整形外科的な疾患につきましても、片や運動療法で、片や伝統的な方法でと、治療がなされていて、やはり一緒に研究をしたり、臨床的にも補完しあうということが理想です。一緒に学部の中で研究者が交流することによって、お互いに刺激しあい、発展させていきたいと考えています。

關市長 両方のいいところを使うということは、絶対に必要なわけで、たとえば、ある既存の大学の医学部の中にそういう研究科等を作っても、あまりうまくいかないと思っている。むしろ大学全体でそういうコンセプトを持って、いわゆる東洋医学の鍼と、理学療法、いわゆる西洋医学的なものをうまく融合できる。いいところを使えるような卒業生をどんどん作っていく。これは非常に意味があると思います。その大学の中に単独の講座を作っても、教授次第である。普通、一人しか教授はいないので、ものすごく優秀な人の時はレベルが上がるが、人によってはあまり成功しないというケースも多々あるわけですからね。東洋医学学科を標榜していても、必ずしもいいレベルを保つとは限らない。それより大学全体でそういうコンセプトを持って始められるのとは違うということでしょうね。

森理事長 限られた分野、治療法の中で、そこの人たちが一丸となって突き進んでいく、姿勢の問題でしょうね。



大阪市長

關 淳一

若い人が通うことで 新たな交流が生まれる

森理事長 まだ小さな大学ですので、大学の力にも限界がありますから、ぜひ、大阪大学や大阪市立大学と協力関係を持って、いろいろ一緒に共同研究をさせていただき、少しでも市民の皆様に貢献できるようにと思っています。特に学長は、市大のOBでひょっとしてご存知かもしれませんが、整形の廣橋賢次先生です。

關市長 ご存知どころか親友です。彼が学長で行くんですか？

森理事長 ええ。来ていただく事になりました。廣橋先生にはすごく鍼灸や柔道整復にご理解をいただいています。理学療法と同一学部にするということについて皆さんの理解が得られないんじゃないかと心配してんですが、学長自らが、これは一緒にやるべきだ、特に共